

ヤマトモンシデムシ *Nicrophorus japonicus* Harold

【選定理由】

平野部に生息する代表的な大型シデムシとして知られていた種であるが、近年生息に関する情報が著しく減少している。

【形態】

体長 14～20mm。黒色で、各上翅に 2 本の鮮やかな赤色の帯状紋がある。帯状紋は会合腺に達することはなく、中に黒点を含まない。後脛節は強く湾曲する。

【分布の概要】

【県内の分布】

安城市、西尾市、名古屋市、小牧市、春日井市、犬山市、津島市、愛西市、あま市などの平野部から記録されている。

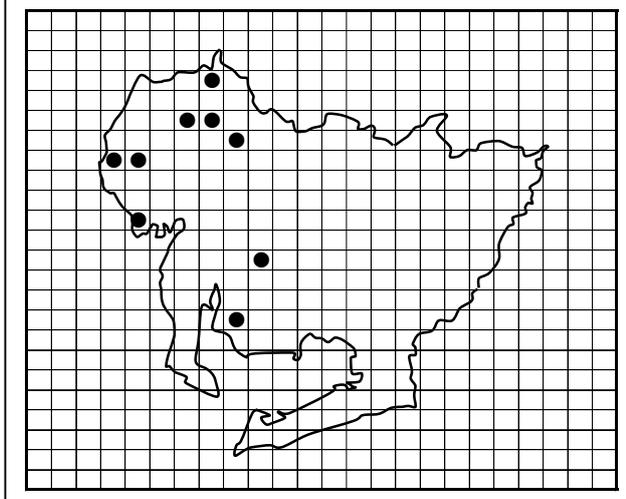
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

朝鮮半島、中国、モンゴル、台湾。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

主に平野部を中心に分布し、小動物の死体に集まる。親虫は幼虫の生育が完了するまで付き添い保育を行うなど、高度な亜社会性生活を営む。河川敷など、動物の死体が流れ着きやすいところに生息しているものと考えられる。

【現在の生息状況／減少の要因】

あま市（旧美和町）、鍋田干拓地では 1990 年以降の生息確認があるが、その後の記録がないため現在の生息状況は不明である。かつての採集記録がある名古屋市、小牧市など尾張地方都市部でも近年の記録報告は聞かない。

減少の要因としては、都市化の進行とともに平野部に本種の生息に適した環境が減少したこと、ならびに餌となる小動物が減少したことがあげられる。また、衛生環境が整い、小動物の死体等が放置されなくなったことも要因となっているかもしれない。

【保全上の留意点】

減少の背景には、野生小動物の減少や衛生環境の改善による影響が少なからずあるため、本種の保全は単純ではない。県内での詳細な分布状況と生息環境の把握を行う必要がある。鍋田干拓周辺など、現在残されている生息地周辺では、生息環境の維持、保全が必要であると思われる。

【関連文献】

佐藤正孝, 1990. 愛知県の甲虫類 (I). 愛知県の昆虫, (上): 204-231. 愛知県.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)